

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



省エネ生活の心がけ

2月は「省エネルギー月間」。

1年で最も冷え込むこの時季は、多くのエネルギーを消費します。

この機会に、省エネルギーについて学び、
無理のない省エネ生活を始めてみませんか。



気料金や燃料費、食品、生活雑貨などの値上げラッシュが続いています。売り場で商品の値段を見て、手放すこともしばしば。まだ新しい価格設定に馴染めません。

1年で最も寒くなる時季になり、暖房費などの光熱費も気になります。実際、使用した電気量の把握が難しいため、後から届いた請求額に驚いた人も多いのではないのでしょうか。

国は今月を「省エネルギー月間」としています。この機会に、自分の生活を見つめ、エネルギーについて考えてみましょう。

電気は何から作られるか

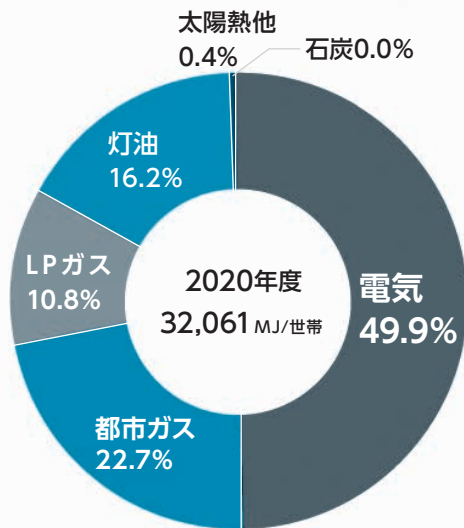
家庭におけるエネルギーの消費割合を種類別に見てみると(表1)、ほぼ半分が電気です。

では、この電気は何から作られているのかご存じですか。

東日本大震災以降、原子力発電が大幅に減少し、火力発電が72・9%を占めています(表2)。この燃料と

エネルギーの現状

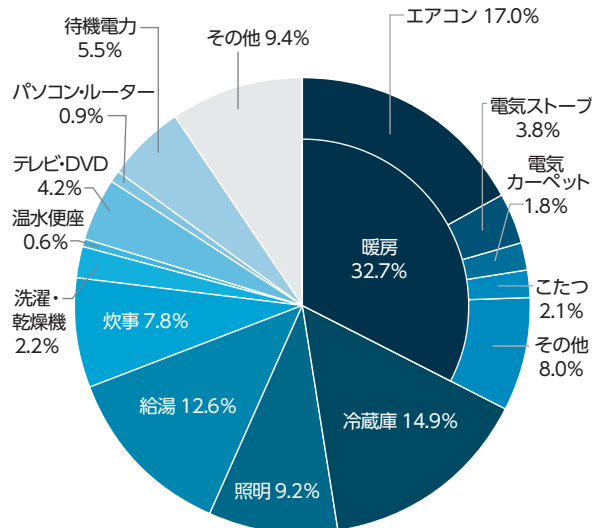
家庭のエネルギー種類別消費割合 表1



家庭のエネルギー消費率を種類別にグラフにしたものです。ほぼ半分が「電気」で占めており、電気の使い方を見直すことが大切です。

出典：資源エネルギー庁「エネルギー白書2022」

家電製品別の電力消費割合 表3

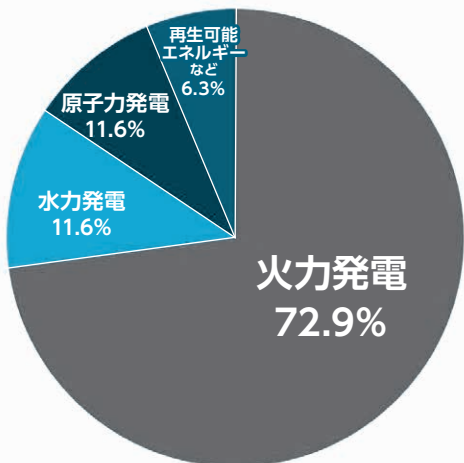


冬季の家庭で、電力消費が特に多い日の電力消費量を家電製品別にグラフにしたものです。

「エアコン」「冷蔵庫」「照明」で半分以上を占めており、これらが省エネの大きなポイントになります。

出典：平成30年度電力需給対策広報調査事業結果

発電の種類別割合 表2



出典：資源エネルギー庁「2-(1)発電実績2021年9月」

カーボンニュートラルとは

暮らしで排出されるCO₂の量から、森林などが吸収するCO₂の量を引いた時、答えが「ゼロ」となる状態を「カーボンニュートラル」と言います。

日本は2050年までに「カーボンニュートラル」を目指し、2021年に市は「ゼロカーボンシティ宣言」を表明しています。

地球を守るために
2015年にパリ協定で産業革命前からの気温上昇を1.5度に抑えることを世界中の国が目標にしました。現在すでに気温が1.1度上昇しています。限りある資源の維持と地球環境

なる石油・石炭・天然ガスなどの化石燃料は、輸入に頼らざるを得ず、その資源も限りがあります。また、燃料を燃やすことで、二酸化炭素が排出され、地球温暖化に影響を及ぼす問題も生じています。

省エネ生活の心がけを

寒さを我慢し、豊かな生活をやるめるということではありません。無駄に使用しているエネルギーを無くし、エネルギーを効率よく使う「省エネ生活」を始めてみませんか。

二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」へ歩みを進めるために。

※『省エネ・節電メニュー』P6参照